



創業時の思い出を語る下地ご夫妻

夫婦2人3脚の創業

働きながらも、葉草の栽培と研究を熱心に続ける下地社長の側にはいつも奥様のマツ子さんがいた。

1974年（昭和49年）豊見城村（現在の豊見城市）で沖縄長生葉草本社を創業した。傍らで泣きじゃくる子供をあやしむながら社長が葉草を栽培し、奥様は小さな背中に商品を背負い、全国を飛び回ったという。夫婦2人3脚の葉草ビジネスの始まりである。創業当時、世の中にはまだ「健康食品」という言葉もなく、「ウコン」と

いう名前にも親しみがない時代であった。こういった形で提示すれば買ってくれるのか。そのための試行錯誤が続いた。大きなウコンの塊を小さく切り分け、葉草の飲みやすさの追求は、やがて商品の形をティーパック、粒状、錠剤と進化させていった。さらに葉草の効能を熱心に説き、徐々にお客も増え、「効果があった」という購入者からの声に励まされながら、さらなる商品開発が続いた。

そして1980年（昭和55年）に業界初のブレンド茶「健命一番茶」が、さらに1982年（昭和57年）にはブレンド茶の発展型新商品「福寿来A」を発売し、その飲みやすさと効果で主力製品となった。さらに、1986年（昭和61年）には業界初「春ウコン粒」を販売。複数の種類のウコンを配合することで効果を向上させる技術を開発した。

ウコン、クミスクチンなどの各種葉草を自ら畑で栽培し、さらに自社で加工し販売することで、葉草に込められた社長の思いはそのまま消費者の手に届けられた。

自らの使命を自覚し、かつ常に身の丈にあった事業展開を行っていく。そこに停滞はない。安易な



沖縄長生葉草本社が開発した健康食品

ブームに流されることもなく、自らの信念に基づき、着実に歩みを進めていく。

また、長年の葉草との取組を通じて培われた下地社長の葉草に関する知識の一部は「琉球葉草誌」という冊子にまとめられている。

畑は創造の源

会社にいるよりも農園にいることが多い社長は、社員からは親しみをこめて「畑のおじさん」と呼ばれている。創業当時の気持ちを忘れないためにも毎日自ら畑を耕し、葉草を栽培する社長は、「畑

こそ創造の源」と語る。

葉草の花びらを一枚一枚分解して調べたり、採取してきた葉草がその土地に根付くまで多くの試行錯誤を繰り返す。そして葉草との長い付き合いの中で、その効果効能を検証し、あらたな商品が生まれていく。

長年の農園での研究成果の1つが「沖縄皇金（オキナワ・オウゴン）ウコン」である。これは秋ウコンに改良を加えたもので、一般的な秋ウコンと比較して、「テトラヒドロルクミン」という抗酸化成分の含有量は22倍以上もあるという。



長年の研究の成果「沖縄皇金ウコン」

キラッと 沖縄

KINAWA

薬草を通じて多くのの人々に 健康で幸せな笑顔を届けたい

有限会社沖縄長生薬草本社
代表取締役社長

下地 清吉さん

「薬草を源に、人類の健康の為に技術と真心で奉仕する」。薬草を通じて多くの人々に貢献することを経営理念に掲げ、日々、薬草の栽培と薬草を原料とした健康食品の開発に取り組んでおられる有限会社沖縄長生薬草本社代表取締役社長 下地清吉さんにお話を伺った。

生活の中に「薬草」があった 子供時代

下地社長は1945年（昭和20年）に宮古島に生まれた。島での生活は厳しく、島には病院がなく、病気やケガは野山に自生していた薬草をとってきては治していたという。下地社長は幼い頃、木から落ちて腕を骨折した。その時、父親が薬草を使って治してくれた。

また風邪をひいた時は、祖母が畑にあった野草を煎じて飲ませてくれたという。このような幼い頃の体験を通じて、下地少年は薬草の不思議な魅力に惹かれるようになった。それはやがて薬草が体に良い。薬草を通じて人々を健康にさせることができる。だから世の中に広めたいという「薬草に対する確信」となる。下地社長の薬草による「しあわせの方程式」である。

宮古島から本島に出てきた下地社長は、兄の経営する会社で働きながら、薬草の栽培と研究を続けた。工事現場での休み時間があれば、近くの山に入っては薬草を採取したという。この地道な薬草採取の努力は、沖縄全土のみならず海外まで広がっていく。そして、その成果は今、本社の裏側に広がる4500坪の広大な薬草園に結実している。

また、世界でもトルコ共和国を中心とした一部地域のみで栽培されている黒人参の沖縄での栽培に成功し、その商品化もした。

下地社長自らトルコ内陸部にまで行き、現地栽培方法を学び、自社農園で栽培した原料だけを使って商品化した。黒人参には、普通の人参と比較して、抗酸化成分の含有量が約12倍もあるという。

「安全」、「安心」へのこだわり

「誠意」、「清潔」、「精一杯」の3Sを合言葉に、より多くの人々に「健康で幸せな笑顔」を届けたという思いで日々努力している下地社長。葉草が金になるから商売しようなどという短絡的な発想は微塵もない。昨今「儲かる○○」という考え方が先行しがちであるが、そんな考え方は葉草との付き合いはできない。そして、直接口に入れるものだからこそ「安全」「安心」にこだわる。2003年(平成15年)には徹底的な検査で製品の安全を確認するために農場から加工場までの全ての現場での品質管理の国際規格「ISO9001」と

食品衛生管理規格「HACCP」を取得した。

葉草の効果海外へ

沖縄長生葉草本社では、10年ほど前から台湾を主な取引先として沖縄特産ウコンを使った健康食品の輸出を行っている。最近では台湾においても、沖縄のウコンが持つ効能が認知され、販売が伸びているという。しかし、そこまでになるには台湾の食習慣を踏まえた成分配合の工夫や沖縄ウコンの認知度向上のための情報発信などの取り組みがあった。

台湾で沖縄産ウコンの健康食品が受け入れられたことで、下地社長はさらに中国大陸での販売展開の可能性が開けたと語る。

長寿県沖縄の復活

身近な野菜や野草を料理に取り入れ、栄養バランスの取れた食習慣を身近に感じてきた下地社長にとって、ファーストフードがはやり、栄養バランスに無頓着になっている沖縄の人々の食生活の現状が気がかりだ。特に若者の食生活が乱れてきていることを憂う。栄

養バランスの取れた食生活を通じて、病気を予防し、健康な生活をする。そのために役立ちたいというのが下地社長の願いである。

2017年(平成29年)4月、春の叙勲で下地社長は長年の中小企業振興功勞として旭日単光章を受章した。しかし、長寿県沖縄の復活に向け、社長の闘いは続く。

ぜひ沖縄長生葉草本社を訪ねてみてください。そして併設されているカフェレストランや農園にも行ってください。農作業中の下地社長に会えるかもしれません。



会社概要

有限会社沖縄長生葉草本社

所在: 沖縄県南城市佐敷字仲伊保116-1

連絡先: 098-947-3214

創業: 1974年(昭和49年)

[事業内容]

自社ブランド健康食品の製造・販売

健康食品OEM受託製造

レストラン「ハーブカフェ・ウコンサロン」